

真城地区振興会

■代表者：会長 遠藤 計悦
 ■人口：5,801人（男2,803人／女2,998人）
 ■世帯数：2,059世帯
 ■拠点：真城地区センター
 （水沢区真城字柿ノ下99番地 ☎☎3920）
 （平成25年10月31日現在）

結 ²⁰ -ゆい- ～30の地区振興会による 協働のまちづくり実践事例～

真城地区は、水沢区の南西部に位置し、前沢区古城に隣接しています。基幹産業は稲作を中心とした農業。肥沃な土地と水利に恵まれた稲作地帯を形成しています。また、同地区の北部には市街地が広がり、民間のアパートや分譲地などの新興住宅の開発が進んでいます。

「みんなでつくる元気であるおいのあるまち・真城」を合言葉に、昭和32年に「真城有志の会」が設立。これが真城地区振興会の前身です。旧真城村役場の職員OBや地区の各種団体役員などが結束し、同地区の発展に寄与することを目的とした組織がスタートしました。その数年後に現在の振興会名称に改称。同振興会は現在も、有志の会設立当時の合言葉をモットーとして掲げ、地域づくりに取り組んでいます。

現在、①地域振興②教育文化・スポーツ③健康・福祉④生活環境——の4部で各種事業を展開しています。また、



ことしは秀衡街道などを探訪

同振興会の特徴として挙げられるのが、地区代議員制度。代議員を通じて、より多くの地区民の声を拾い上げることが可能になっています。

■真城心るさと探訪事業

同振興会は、地域の良さを再認識することを目的に、地区内の史跡や遺跡、寺、神社などの地域資源を巡る「真城心るさと探訪事業」を行っています。

事業を開始した当初は、旧真城村を構成していた6地区を6年かけて巡る地元探訪ツアーを行ってきました。その後は少しずつ範囲を広げ、現在では同地区のみならず、他

門に8件、中学生部門に66件の応募がありました。その中から、最も優れたアイデアとして、一般部門では「ねこばんでん」を製作した全国友の会水沢友の会（三浦初代リーダー）を、中学生部門では「不用になった服の有効活用方法」を提案した阿部結衣さん（小山中2年）を「めぐみネットエコ大賞」として表彰。普段から節電などを意識しているという阿部さんは「今回は服のリサイクルでしたが、ペットボトルや傘などの再利用も考えていきたい」とエコへの取り組みについて抱負を語ってくれました。

その他にも、みずさわエコキッズによる1年間の活動状況の発表や、特定非営利活動法人エコ・スタディいさわによる紙芝居「大清水のいさわ」の上演なども行われました。

団体紹介

同ネットは、本市の自然環境保全に向け、市や市民、団体、事業者などとの協働を目的に、平成22年に設立。現在は、趣旨に賛同する129の個人・団体・事業所などが会



ツアーの参加者

「わんぱくでんでん教室」は、同振興会が真城小学校と連携し、学校の授業（総合的な学習の時間）などを活用して、地域の基幹産業である稲作についての学習機会を提供しています。同地区の農家の人たちの協力を得ながら行うことで、子どもたちと地域住民の交流を図ることが目的です。

春先の田植えから始まり、生育観察、秋の稲刈り、脱穀、収穫祭と、稲作における一連の流れを学んでいます。

ここの脱穀体験では、昔ながらの脱穀方法である「千歯こき」や「足踏み脱穀機」を使用し、子どもたちは昔の農作業の大変さを身をもって体験しました。



千歯こきで脱穀を体験する子どもたち

環境づくりの輪を広げよう

おうしゅう環境フォーラム 2013

～奥州市環境市民会議 奥州めぐみネット～



“つながれ広げれNPOの輪”の後継企画のこのコーナーでは、特定非営利活動法人や市民団体の活動を紹介していきます。

おうしゅう環境フォーラム2013が11月30日、胆沢文化創造センターで開催されました。「いのち育む『水』」焼石から胆沢へ、そして私たちへ」をテーマにしたこのフォーラムは、市環境市民会議・奥州めぐみネット（高橋貞勝代表）と市が主催。本市の美しい自然環境、住みよい生活環境を次の世代へ引き継ぐため、自分たちは何ができるか、何をすべきか、一人一人が考え実践することを目指す企画でした。

オープニングに続き、水沢区出身で一般社団法人いわて流域ネットワーク代表理事を務める内田尚宏氏が「環境先進国の水と川づくりと環境意識の育て方」と題して基調講演。諸外国の事例を挙げながら、日本での環境づくりの重要性やポイントなどを説明しました。また、震災後、沿岸被災地の子どもたちを紹介した川遊びイベントを紹介。生き生きと遊ぶ子どもたちの様子から、自然がもたらす力について語りました。

2年目となる「エコ・アイディア」の募集には、一般部

門に8件、中学生部門に66件の応募がありました。その中から、最も優れたアイデアとして、一般部門では「ねこばんでん」を製作した全国友の会水沢友の会（三浦初代リーダー）を、中学生部門では「不用になった服の有効活用方法」を提案した阿部結衣さん（小山中2年）を「めぐみネットエコ大賞」として表彰。普段から節電などを意識しているという阿部さんは「今回は服のリサイクルでしたが、ペットボトルや傘などの再利用も考えていきたい」とエコへの取り組みについて抱負を語ってくれました。

その他にも、みずさわエコキッズによる1年間の活動状況の発表や、特定非営利活動法人エコ・スタディいさわによる紙芝居「大清水のいさわ」の上演なども行われました。

団体紹介

同ネットは、本市の自然環境保全に向け、市や市民、団体、事業者などとの協働を目的に、平成22年に設立。現在は、趣旨に賛同する129の個人・団体・事業所などが会



1



2



3



5



4

1奥州めぐみネットの活動紹介に見入る来場者 2エコ・アイデアの展示コーナー 3めぐみネットエコ大賞を受賞する全国友の会水沢友の会の三浦リーダー 4同じく小山中2年の阿部さん 5奥州めぐみネット会員の皆さん（フォーラム実行委員）

員として活動しています。高橋代表は「この豊かな自然を守るため、身近なこととして不法投棄やポイ捨てはしないなどだが、一向に無くなりません。問題の解決には、市民一人一人の意識の変革が求め

られる」と訴えています。エコに関心のある人は、同ネットの活動に参加してみたいかがでしょうか。

■市環境市民会議・奥州めぐみネット（市生活環境課内 ☎2111）